

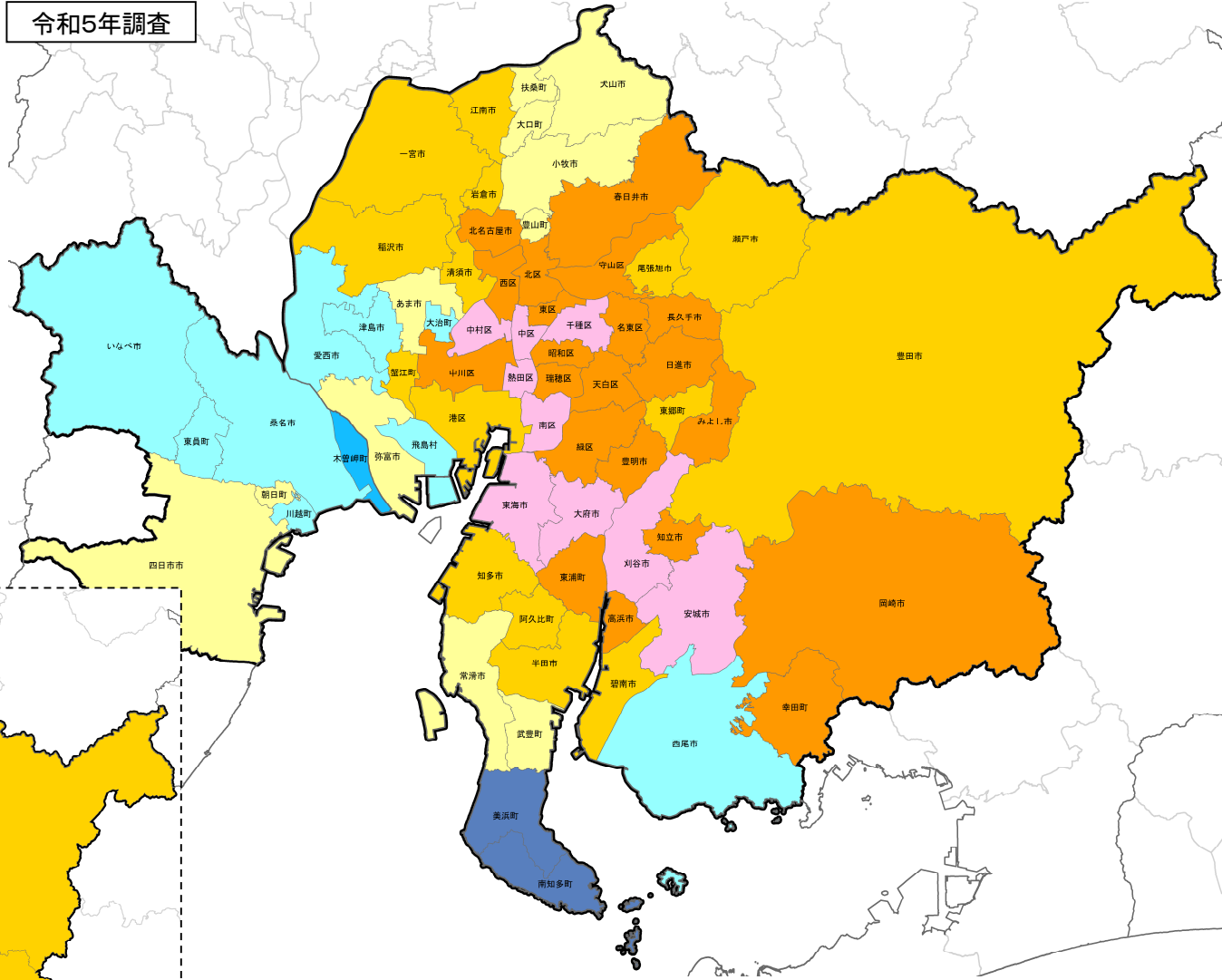
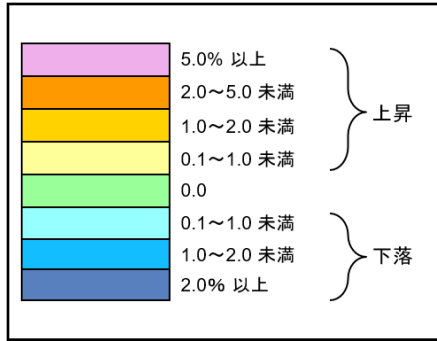
## 5. 名古屋圏の住宅地

※（ ）は前年変動率

愛 知 県	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 名古屋市では、3.9%上昇（3.1%上昇）。全16区で上昇となった。13区で上昇率が拡大、2区で上昇率が同率、港区で上昇率が縮小となった。</li> <li>・ 市中心部では、中区で10.2%上昇（8.4%上昇）、中村区で5.8%上昇（3.6%上昇）、熱田区で6.8%上昇（5.1%上昇）、東区で4.9%上昇（4.5%上昇）となった。</li> <li>・ 交通利便性に優れた地域では、マンション需要が堅調であり、地価上昇が継続している。</li> <li>・ 従来からの優良住宅地域の需要は底堅く、地価上昇が継続している。</li> </ul> <p>刈谷市、安城市、知立市等の西三河地域は、自動車関連企業の従事者等からの需要が底堅く、住宅需要は堅調に推移しており、地価上昇が継続している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 名古屋市に隣接する知多北部地域の東海市や大府市では、名古屋市と比較した割安感がある地区や名古屋市への交通利便性が良好な地区で地価上昇が継続している。</li> <li>○ 知多南部地域では、人口減少や高齢化の進展により下落傾向が継続している。</li> </ul>
三 重 県	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 四日市市では、0.4%上昇（0.0%）生活環境や利便性の優れた住宅地を中心とその外延部に上昇地点が増加し、地価が横ばいから上昇に転じた。</li> <li>○ 朝日町は、0.3%上昇（0.0%）名古屋、四日市方面へのアクセスも良好で、宅地開発も進んでおり、子育て世代などが多く移り住んでおり、地価が横ばいから上昇に転じた。</li> </ul>

# 市区町村別の状況（名古屋圏・住宅地）

令和5年調査



令和4年調査

